繪本通俗三國志 五編 三

東京圖書館

和書門	小說類	二六函	七架	七八號	七五冊

TOKIO LIBRARY

繪本通俗三國志五篇巻之三

目録

明治十年交換

曹操打殺伏皇后
曹操破漢中張魯
張遼大戦逍遥津

曹操輕手殺伏皇后

建安十九年の冬、曹操大軍を起し、呉を滅さんとて、已に手分を定むるの參軍傅幹字は彦材といふもの、上書して諫て曰く。

幹伏聞、治二天下一之大具、有二文與武一也。用武則先威、用文則先德。威德以相濟、而後王道備矣。往者、天下大亂、上下失序。明公用武攘之、十平其九、今未兼二王命一者、吳与蜀也。吳有長江之險、蜀有崇山之固、難以威勝、易以德懷。愚以為、且按甲穴寢兵、息軍糧士、分土定封、論功行賞、若此則內外之心固有功者勸

而天下知制矣然後漸興學校以道其善性而長其節義公神武威震於四海若修文以濟之則普天下無思不服矣今舉數十万之衆屯長江上濱若賊負固深藏則士馬不能逞其能奇變無所用其權則天威有屈而敵心未能服矣惟明公思虞舜舞干羽之義全威養德以道制勝則國家之幸也願鈞察焉

曹操見了。遂令吳國太止。令學校造。設。學者之道。教。政。治。民。懷。王粲杜襲衛凱和洽等。四人侍中。令相議。曹操尊。魏王の位。即。とき。中令荀攸。

て。ありべからず。今丞相官。魏公。至。栄九錫。加。爵。諸侯。又王位。即。人臣の望。身。餘。今。

又。王位。即。人。理。於。然。必。

させ。と。諫。曹操。怒。人。亦。荀彧。

ありと云。荀攸。

内。亡。

あり。曹操。

曹操。帯。内。入。

座。曹操。来。

怕。戰。曹操。

覇。朝。尊。

いくされをかの魏公の裁断あり曹操怒て曰く。陛下さきの言を
出しまつる文武の臣おもてきてちまぐらに偏に某が君を欺くと沙汰
しかの帝宣く。君り朕を佐ること厚とそへ安んぞ其恩を忘れ
べき曹操座を起く。作り眼をとり帝を威しまつりと坐さり時
に諫議郎趙儼といふもの帝に見へて。近比曹操こがらら魏王
とあらんとす久しくらちをしく必ず天下を奪へしと奏しけれ
ば帝伏皇后と哭き悲みたまふ早かの由を曹操に告るものあ
り。曹操怒りて。武士を引具し。禁裡に打入り。趙儼を生捉
て市に斬帝おそれきて。愕き哭うせのひけまへ伏皇后に曰
く。父の伏完は常に曹操を。殺さんとするんあり。まづ文を
もて。父にかの事を訴へ。計をなさしめん。帝の宣く。むし

董美事を成こと密あらまをして反て大なる禍あり。恐くは
又事漏て朕も后も憂目をみん。伏皇后の曰く。去りとは
も朝夕針の氈に坐するごとく。片時もんと安んぜること
し。命存へてあるうはせん。早く死んに去るに常ぞんと
付て。内官を見るに只一人忠義を正して。曹操を殺さんとす
るものあり。おの人を頼んでひそかに父の方へ文を送らん。帝の
宜くいふある人ぞ。伏皇后の曰く。穆順あらさんぞ。叶まじと
て。即時にやしなせ。傍の人を退けて。帝も后もとまに哭きるか
しこ曹操こがらら魏王とあんして。天下を奪んとするんあり。
宮中の人おそれくまづ耳目あり。朕夫婦たべきやうなく。誰か
語るべき人もなし。汝ひそかにおの文を伏完に送りとのを計れ

曹操
朝廷ふ
武威と
慾ます
曹操
帝王
皇后

運じて。古の難を救と宣ひけまべ。穆順涙をおさへて申す。臣久しく。陛下の大恩を蒙り。命を失ふとも。おんを惜む。ゆゑ。伏完と共に計を成す。帝頷く。喜び。后の文を渡しる人を。穆順さを髻の中に藏し。ひそかに内裏を出て。直に伏完が宅へ。后の文を出しけまべ。伏完ひらきえるに。紛れなき。女の文なりを。おのれ。穆順と議してやけるへ。朝廷の衆官を。えらぶ人。曹操に近付べきものは。呉の孫權。蜀の玄德。かたらひ。兵を起して。都を攻させあべ。曹操。ゆゑに出て拒ぐべし。その隙に朝廷忠義の舊臣を語らひ。一同に事を起さん。穆順が曰く。ゆゑに。おのれを帝と后とに告て。御心を安んじる。伏完申とく。返簡を封じて。穆順に渡しけれべ。穆順又よくく髻の中に藏し。別まして内裏へ回りけるに。曹操ときに。穆順が外へ出る由をきく。宮門に立て。其回を待。穆順走りて。前に来りけまべ。曹操問て。曰く。汝何へ行たる。穆順答て曰く。皇后俄に腹の疾あり。某に命じて。璽者を尋ねしむ。曹操が曰く。璽者は何なるか。穆順が曰く。急にして。いまだ。曹操怒りて。武士に命じて。あまねく搜させけるに。さらに一物もなかりしべ。そのまゝに放しけり。穆順虎の口を逃れたる心地して。歩を回らんとせるに。忽ち風吹て。頭に被たる帽子を落す。曹操。おのれ。付て。よび回しこゝに。帽子をとるに。怪きことも。あるかしべ。乃ち返し与けるに。穆順。両の手に受取。頭にかぶり去んとせけまべ。曹操。推とゞめ。髻の中に。

ゐるらむと仔細あらんとて自搜しけるに果して伏完が后ふこ
とゝある文あり披ひてよまんとするに玄德孫權とかさらひ
曹賊と殺さんと書たりけるとべ曹操大に怒り穆順と志ゐて
拷問さるに更に落ざりしかるべ其夜三千の精兵を率して伏
完が宅を取囲み内に入こゝあまた孫く搜しけるに伏皇后の文とを
り出せり曹操いよく怒り伏完が三族を捕て獄に下し夜あけ
て御林將軍郗慮に節を持せて内裏に入れまゐり皇后の金璽
綬を奪て平人となさしむるのとき帝の外殿に出て御座あり
けるに郗慮鐵たる精兵三百人を引て来りけるとべ帝おどろひ
てあるゆゑを問ゐに郗慮答て曰く魏公の命を受て皇后
の璽綬を收ひ帝の洩たるを志ゐて騰を落し魂を失ひて

怕き慓きゆゑに郗慮直に後宮に入りけるとべ伏皇后窠所より
出ひ事の洩れたるを急に椒房の門内に走り壁間
に藏れ入り去らくありて尚書令華歆又五百の精兵を率
して後宮に入伏皇后を何に居ゆと問へども宮女ども相推
て房中に藏れ入りと答華歆兵を下知して朱戸を打破き
あまね探く尋ぬれども更に人を餘に求やうね刀をゆひて壁
を切開きけるとべ伏皇后を門と喚ひて走り出ゆて華歆み
づから后の髮を掴んで引出す皇后いたく哭き我命
を助けよと叫びゆゑ華歆大に叱り汝みづから魏公に入こく
哭けとて武士どもに引立て髮を乱し跣足にして外殿に出ゆ
れば帝おはすとて殿上より走り下り后を抱て哭きゆゑ華

歌声を怒し魏公の命なり。速に行けと下知ましべ皇后詞を
放して哭き。復活るとて克ざるとて。地に倒まのへ帝も御袖
を推當朕命も料がたしといよいよ御涙を咽びの人べ武士前
後を打囲み后を追立て出さけり。帝さまを望みて。胸を打て
哀み哭き。郗慮が傍にありしを向て。如何郗公天下を寧る
ものあらんやと宣ひ。地の上に昏絶しるひけまべ郗慮た
まりて宮中に入まし奉る。華歆后を引て。曹操に見けまべ曹
操大に怒りまし誠のんとありて。天下を治む汝ホ却て。まこと
害せんと謀るまし汝を殺さでかなわ。汝まを殺さんとまるやと
いよく武士に命じて。乱棒を打殺させ。又宮中に入まして。伏皇后
の生の人る二人の皇子を。酖毒にて殺し奉り。伏完穆順が一門二百
余人を捕て。ことごく市に斬けまべ朝野の人ども敬畏き怕まざるな
へるし。時に建安十九年十月なり。帝は伏后の御哭きを曹操又いと
あるあらき沙汰を致さんとて。宸襟を安んじ給ひ連日供
御をも聞し召まざるなわ。曹操きたり見へてヤけるへ陛下す
こしも憂ひ給ふな臣いうぞ情あき。行ひを赤さん臣が女をで
に陛下の貴人たり。大賢大孝にして。宜く皇后を備べしと勧
けまべ帝已を得ざしてそれを從いせりへ。建安二十年正
月朔日に。曹操が女曹貴人を冊立て。皇后とけまべ群
臣あつて言を出さるものあらりけり

曹操破漢中張魯

曹操手下の大将をあり。呉蜀を滅さんとの事を議しけれべ賈

謝しけるに。宜く夏侯惇曹仁をやりて。そのゆへを議り玉へ。曹操これに志たがひ。まづ羽檄を飛して。二人を召ども。夏侯惇ハいまだ来らず。曹仁ハ早く来りければ。直に府中へ入て。曹操に見んとするに。その時曹操酒に酔て睡り居り。許褚剣を執て堂の門に立。曹仁を推止て。内に入れまゐらせざりければ。曹仁怒て曰く。我ハなにとなれバ。征南の重臣にして。曹氏の一門に連る身なり。汝いかなれバものをなれバ。此のごとく無礼なるぞ。許褚答て曰く。将軍ハまことに曹氏の御一族にして。それハご親とハ申ながら。已に外に出て敵を征するの官人。某ハ疎にして。身賤き士卒なれども内侍の職を兼りて。君の傍を離れず。今君酒に酔玉へ堂上に臥りまふのゆへ人を入まじと云ければ。曹操ねむりさめて。きゝつゝ走り出。虎侯がいふ所ぞ。なるほど明なり。誠に忠烈の大将なりと。曹仁をあやしむる事なかれとぞいゝける。数日ありて。夏侯惇来りければ。ともに謀を評議するに。夏侯惇が曰く。呉蜀ハまだにはかに攻べからず。まづ漢中を攻て。張魯を滅し。勝に乗て。蜀を伐ば。一鼓して破るべし。曹操喜び。これまさに我が意にかなふなりとて。西征の大軍を。三手に分。夏侯淵張郃を先陣とし。曹仁夏侯惇を。後陣として。兵粮を司らしめ。曹操みづから。諸将と中軍に備へ。漢中をさして推寄る。その由先達て漢中にきこえければ。張魯大におどろき。諸将と計て議するに。弟の張衛がすゝみ出て曰く。漢中第一の要害ハ陽平関なり。左右山に依林に傍て。十余りの柵を下し。険阻を守りて拒べし。

欠

MISSING

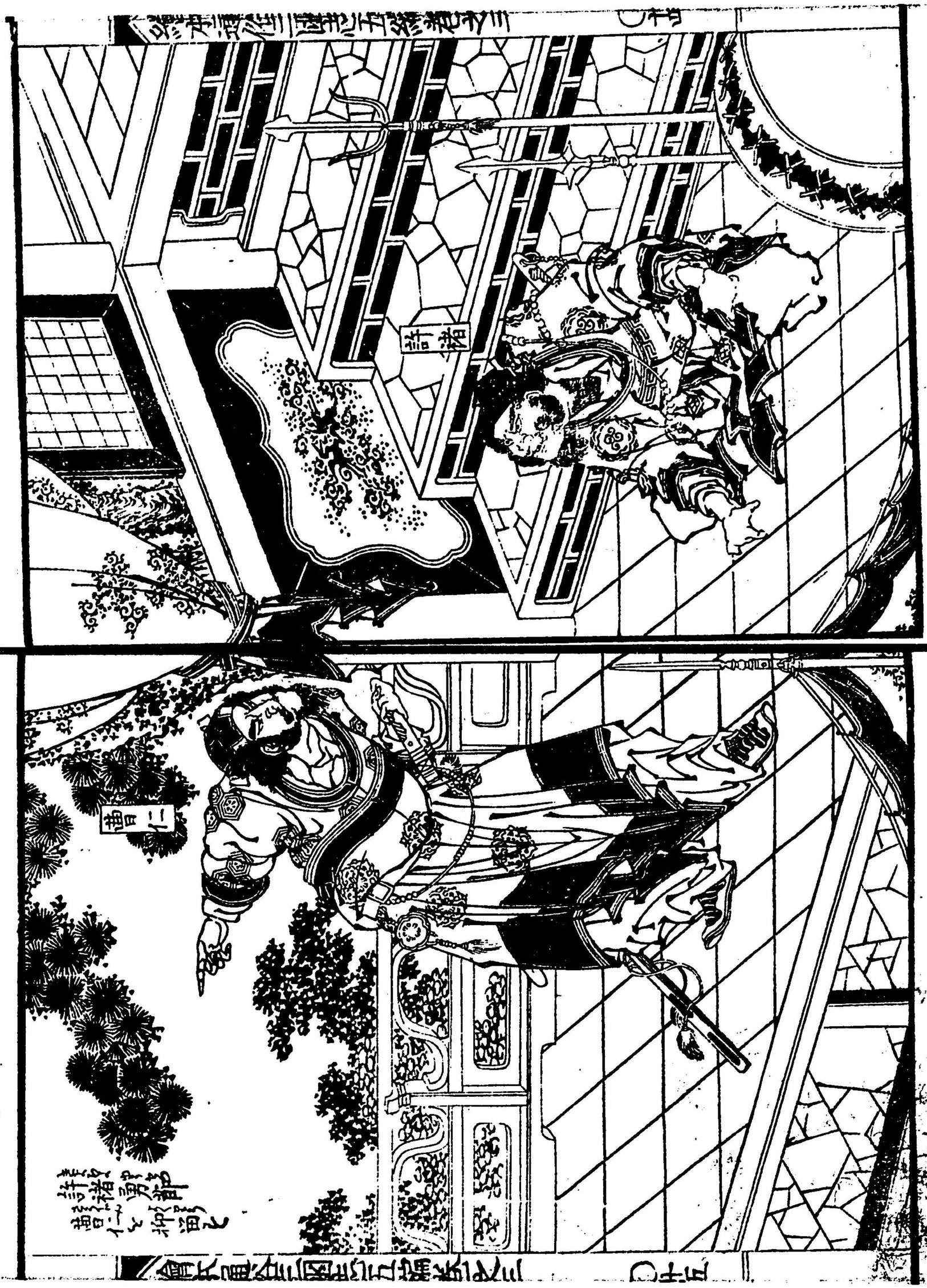
兄へ漢寧ゑ陣を取て。兵粮を送りの人。張魯おれゑ志たがひ張衛を。大将どーて。楊昂楊任二人を副将とー。陽平関ゑ坐て指ゞ志む去程ゑ曹操が先陣の勢が。さでゑ陽平関ゑ近付けるが。敵大勢がゑて。要害ゑ支たりと告けるべ。関と去て十五里ゑーて陣を取。勢ゑ亦長途ゑ疲まてゑとぐく。前後も志らつぎと窠八ところゑ夜更て。陣の後より火を付。楊昂楊任二手ゑ分れて推よせたり。夏侯淵張郃窠耳ゑきいて打驚き馬ゑ物の具よと。噪ぐゑゞゑ。寄手の大勢がとぐく討て入りきんぐゑ蒐たりーゝべ。魏の勢若干伐まて。後陣の勢ゑ迎加る曹操先手の破またるとて。大ゑ怒り。夏侯淵張郃と呼出ー。汝二人久しく兵を用ひて。兵若遠行疲困可防切塞といふとを志らでや。おゑゆ人ゑ油断ーて。此のごとく討ゑたゞぞとて。軍法を正さんと詞りけゑて。諸将志ひて諫ーゆ人。やく兎けり。次の日曹操ゝ〻ら兵ゝ〻て先手ゑとゝゝまゞ〻地理を望見るゑ山の勢ひ険阻ゑーて樹木叢く雑りけゝべ敵の伏兵あらんとを怕れて。再び退き回り。許褚徐晃二人ゑむゝ〻て。我ゑのれ右のごく。難所あるを兼より志〻ゝべ必ず来るゑゞまゝのとと云ハゝと。許褚が曰く。已ゑの右ゑ行進ゑ。君ゑとゝも憚ゑの羽立日曹操ゝ〻ら。駿ゑの〻て。許褚と徐晃とゝ二人を志たゞべ。ひそゝゑ来て。山の坂ゑ上り。張衛が陣を望ゝ伺ひ遥ゑ鞭て揚て。敵の陣山のごく堅固ゑまゝべきゝゝゑ破がゝゝんと。六けるとおろゑ忽然とーく。後ゑ喊の声とをのげ。矢を放と雨のごと曹操

驚いてきうゐ顧るべ楊昂楊任二手の勢殺し来る許褚大音挙
るるへ敵と拒ぐべし。徐晃ハ君を守護して生の人とおぐる有る敵の
大勢四方より群り蒐りけるを許褚刀とまハして勇を振ひ戦ハ
けるべ楊昂楊任が大勢その怪力ゐ怕きて一人も近付エあたハで
馬を回して引退く徐晃おの間ゐ曹操を扶けて許褚とたぐ三騎
ゐて大勢の中を斬破りけるとた一手の兵を せ来る。曹操さきをゑん
るゐ敵ゐハあらで夏侯淵張郃が援の勢あり。敵の追蒐をゑん
て。取て回ーてきんぐゐ戦ひ曹操を守護して本陣ゐ回りけるべ
曹操方死を免るたる心地して四人の大将を重く恩賞したぐひ
ゐ相拒んで五十余日ゐ及びたるぐしき軍もあるりてゐべ曹操下
知を傳へて陣屋を拂ひ都ゐ回らんとす賈詡が曰く。敵の勢ハ猶
いまだ強弱をゑんず。君ゐ人ゐ退きるるん曹操が曰く。ゐるとおゐん
ゐ敵の兵日夜要害を守りてきるゐハ中く破りがたくらんゐるを
詐て引退くと沙汰せべ敵ゐるるらば心怠て油断をべし。其を
ゐて騎馬の勢を軽くとたぐり僭ゐ敵の後を襲ひ敵ゐるるら
ば破るべ。賈詡が曰く。丞相の神機たるよく測知ん曹操
すおのれ夏侯淵張郃ゐとのく三千余騎を付て二手ゐ備小路
をまハりて陽平関の後を攻させゐ大軍を収て引退く体を成
けるべ楊昂ゐるるとき付楊任ゐやけるハいま曹操退ひく都ゐ
回る勢ゐのりておるを討べし。楊任が曰く。いやく。曹操ハ詐ゐ計
極て多く。いまゐ真実を知ず。軽く追べらば。楊昂が曰く。是
時を失べらば。御辺ハおるゐ住まるを自ら追駆ん楊任再三

諫めけれども。楊昂きかず。尽く五寨の軍馬を起して。勢ひ猛の如く追蒐しぶ。俄ゑ夕霧立掩ふて。面と對ふとも見分がたかりければ。半途ゑ止て陣を取。霧の晴るを相待けり。搦手ゑ廻りたる。夏侯淵が一軍ぺひそろゑ山を超て。ときをけるが。霧の内ゑ人馬乃音しければ。敵の伏兵ゑてやあらんとて。きうゑ兵を退けたるゑ。方角ゑ迷ひあやまりて。楊昂が陣の前ゑ出たり。陣中ゑ僅ゑる士卒を残して。守らせけるが。大勢の来るをきいて。味方の兵ゑ回りぬとひとのありければ。楊昂を回りたるぞとて。急ぎ門をひらきけり。夏侯淵が三千余騎。おとぐく込入けるゑ。敵さらゑ出合ざりしかば四方ゑちりて。一度ゑ火をとうげ。喊の声をあげたりけるゑ五寨の軍勢。大ゑ乱まて。四角八方へ逃走る。霧晴てのち。楊任兵を引てたせ来りまぶ火と打消んとする。夏侯淵ぶ勢。前より蒐り。張郃が勢。後より蒐りしかば楊任戦べき方なく。漢寧色ゑ出て。さして逃走る。楊昂へ曹操を追んとて。已ゑ半途まで出けるが。後ゑ火のあがるをんてきうゑ取て回しけるとき。夏侯淵張郃きたるゑ陽平関を攻取。曹操大軍を駆て。後より追蒐る。楊昂前後ゑ裏れて。逃るべき路なく。一方を打破りて。落んとすれば。張郃鎗をひ猛つて突て蒐り。楊昂を馬より下ゑ突落し。首を取てさし上たり。大将張衛。楊昂が討またるをきて。夜半ゑ南鄭を望んで逃去けるを。張魯大ゑ怒り。楊任を斬て棄んとすれば。楊任が曰く。其再三楊昂を諫めしかども。従はざりしかば。敗を取まり。再び軍を

乞て。戦ひを決し。若打負おべくば軍法を蒙らん。張魯よれを従ひ。又二万余騎を分與て。南鄭関の陣を取しむ。夏侯淵見へ。兵を進めんとやけまべ。曹操が曰く。まづ一軍を分て。行先を伺ひ。大軍跡より進むべしとて。夏侯淵は五千余騎分與へ南鄭の路を窺しむ。楊任が勢と出合たゞひは陣をひらき張て。楊任が陣より。大将昌奇といふ者の馬を出して。夏侯淵と鋒を交けるが。戦三合して。馬より下を切て落る。楊任ときとをんくらの鎗をひ引て。突て蒐り戦ひ三十余合して。勝負を分ず。夏侯淵詐り負て走りけるべ楊任をうさぎ追駆るあを。夏侯淵引回して。楊任を一刀を切て落を敗軍大将を討ぐ。四角八方へ逃たりけるべ曹操大軍を駆て大さく。南鄭関を陣を取張魯が由をきいて怕き。文武の大将を集へ計を問けるべ大将閻圃が曰く。某一人を勧て敵を拒ん張魯が曰く。誰人ぞ閻圃曰く。南安徂道の人龐德字は令明といふ者あり。初は馬超に仕へしが馬超が蜀へむかふて病に伏てあを留れり。久く君の恩養を被るあをぞ。その人を用ひべし。張魯が曰げるもと喜び。即時に龐德を召て。こがら持なり。一万余騎を分與けるべ龐德十里あまり出て陣を取。曹操勢を。龐德が名を聞きて。渭橋の戦ひを。その手双の程を見たりしべ。手下の大将をけるべ龐德いもと西涼の勇将にして。初馬超に従ひ

いま張魯に依とゝ人どもそのゝ人さらに吉だとまたその成得て味方に用ひんとす。汝ホこの緩く戰ふべかまぐ氣力を疲らし。あなどぞ。欺ひて擒にせよといひまぐ張郃。一番に馬と出し。二三合戰ふて。引退く。二番に夏侯淵。馬と出し。ちばらく戰ふて走りけまぐ。三番に徐晃入代て五六合たゝかひ詐りて引退く。四番に許褚馬と出し。五十余合戰て退きあるに。龐德とまたゝも怕る氣色なし。諸大將。ほの曹操に向て。龐德が武藝よの常あらずと。称嘆しけまぐ曹操ゝの中に喜び。諸將と計て議とるに。賈詡が曰く。張魯が手下に。楊松といふる謀士あり。ほの人。慾心あく工と知ざして。極て賂を貪る。今僭に金帛を送りて。かまぐんとむとび張魯に龐德と疎んぜしやゝ。曹操が曰く。いかゞ。人と南鄭の城に入まゝん。賈詡が曰く。明日鋒を交へて。詐負て引退き。陣屋を敵にさらせて夜に入り。大軍をもゝて四方より襲へば。龐德ゝるらだ退ひて城に入らん。そのとき弁舌の人をえらび。歩軍にまぐまして城中に入り。ひそかに楊松を尋ね。ほの計を行ばゝ。曹操大に喜び。人の士卒に。よく〳〵ほの旨を云含め。黄金の心當を屬に被せ。表へ漢中の兵の出立に。半途に出て相待せ。次の日夏侯淵張郃。二手の勢を遠く出て埋伏せしめ。徐晃に一軍を付て。敵の陣に攻寄らしむ。龐德。兵を駈て進みければ。徐晃たゝかひ。二三合にして。詐りて逃走る。龐德。勢ひに乗て追寄卒に曹操が先手の陣屋を奪ひ取。ほの陣中に兵粮おく有ら



の勝軍の様を張魯へ報じければ張魯大に喜びけり其夜二更の比に至りて俄に三方より火をうけて徐晃許褚中央より おーよせ左に張郃右に夏侯淵城の邑天地を揺動れば龐德馬に乗りて陣屋を出けるとき早敵の大勢そだまに入まに成りて一支も支ず南鄭をさして逃走るに後より曹操が大軍追蒐しかば龐德が一万余騎おとぐく城中へ入りぎびしく守て拒ぎたくるに内の騒動に曹操が細作城中へまぎれ入り楊松が家を尋ねて ひそかに黄金の心當を贈り曹丞相久しく足下の盛德をきいて某とも ものして好をむすばむ乃昏間あり とて出しけれど楊松ひらきえてそれぞれ使に問て曰く いま丞相へ願ひ入る使答て曰く龐德を

[illegible]丞相喜びたまへり楊松が曰くこの[illegible]て勝ち汝まづ回まとて直に張魯に見へ龐德ひそかに曹操と内應して今日の軍に負たりと説しけれど張魯大に怒り即時に龐德を呼出して きんぐに詞りて首を刎んといひしかれど閻圃諫めて されど止む張魯怒る汝が休だ汝が日の戦ひに勝ざるに らだに首を刎んといひければ龐德恨て合で退出て次の日曹操が大勢攻蒐ければ龐德兵を引て城を出たる許褚が うち馬を出して戦ひて逃走りけるに龐德きわまり追蒐る曹操馬に乗て山の上に立大音あげて龐德ぞんぞ早く降ざるとよばりければ龐德きりと云て曹操を生耶人とも ひ千余騎を引て真地暗に上りけるが忽然として城のうへ

ひぐき。人馬とゆ。陷穽の中へ落入り。上を二下へと蠢くゐを。四方より熊手へ引うけ。卒へ龐德を生取て。曹操が前へ。ふゝー生を。曹操馬より飛下軍士を追ちらして。ゐらそのの繩を解平へ我へ仕よといひけるべ龐德その志しを感じて。張魯が情あり

しとを恨。卒へ再拜して。降人とある。曹操ゐぎりあく喜び。扶けて馬へのせ。態と城の辺を打通り。轡を双べて本陣へ回りけるべ。漢中の兵櫓の上よりゐるを望こ。張魯へ報ド

て。只今龐德と。曹操と。馬を双べ通たりと告けるべ。張魯大へ怒りをれぞて。楊松が言へ違ぞとを。いよく大きゝ。楊松を重んぜ。次の日。曹操が大軍。三方よりおーよせ。雲の梯を作りあげて。鉄炮火矢を雨のごとくへ放ちけるべ張魯ゐを

指ぎ勇て。弟張衛と計を議を。張衛が曰く。ちゝ。火を付く城郭倉廩を焼尽し。巴中へ走て。要害を守るべし。楊松が曰。なぐ門をひらいて。速へ降りゐ。張魯猶豫して。いまゞ決せざりけるべ張衛が曰く。るゝとでゐ急あり。早く火をうけて。巴中へ去ん。張魯が曰く。元命を国家へ返せんとして。意いまゞ違を

るとを得ぞ。いよ鋒鋭を避て。ゐくを去とらんども。ゐんぞ悪意を存ぞべき。城郭倉廩へ元ゐる国家の物へ。私へ廃べき理あーとて。財宝の倉廩へ。ゐとゞく鎖を閉て。よく〳〵封ドて。の夜の二更へ一家の老少を。尽く引具し。南の門を出て走りけり。曹操大軍を引て。城中へ入けるべ張魯が。倉廩を封ドたるを。とを告るものあり曹操ゐを。とゝゆて。甚ゞ怪へ。兵を制して追

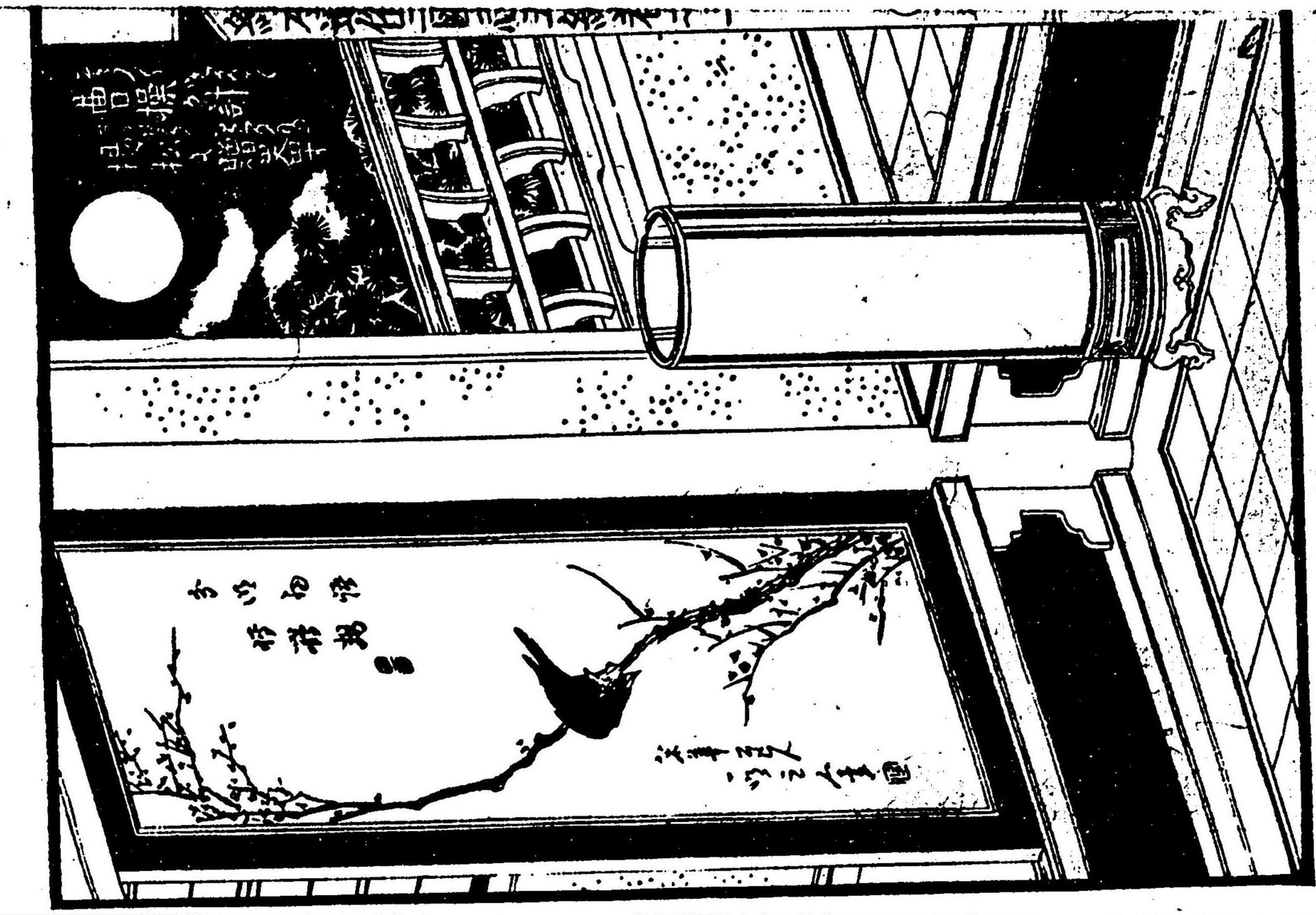
しめぢ。人を巴中に遣して降を降参せば重く用ひんといふ。張魯降らんとおもふ。弟の張衛あり。楊松ひそかに曹操に昏闇と送て攻蒐を人と告げ曹操大軍を引て巴中に寄る。張衛おそれきいて城を出て戰ひけるが。許褚と出あひ一刀に斬られけり。敗軍走り回りて。その由を告げ。張魯固く守りて。拒んとす。楊松が曰く。今若戰はざんば。ならじ。大なる禍あらん。某よくその城を守らん。君ここにうち出て。さ、よく勝負を決し給へ。閻圃が曰く。君うちすべ城を出すは恐らくは不慮の憂あらん。張魯が曰く。楊松が意見。ぶんに合りとて。卒に閻圃が諫を用ひざりけり。城を出て戰んとすれば。手下の勢後より乱るるをよりて。急に退くんとせれば。曹操が大軍。透間もなく追来る。張魯城下に到て。門をひらけとよばりけれども。楊松あんて開かざりしかば。馬を回さんとする。曹操大音あげ。早く降参せよと呼ぶる。張魯さぞ驚きあわて。馬より下て地に拜伏しければ。曹操大に喜び。倉廩を封ぜ。志を感じて。殷勤なりてなる。鎮南將軍に封じて。閻圃ほか五人を列侯とし。漢中をとぐく定りけるべ。ハ郡に地頭を居て。土卒を賞し。たぐ。楊松が君を賣て。富貴を貪る曲者なり。諸人の戒にせんとて市に出して殺しければ人民おそれ快しとぞ申しける。

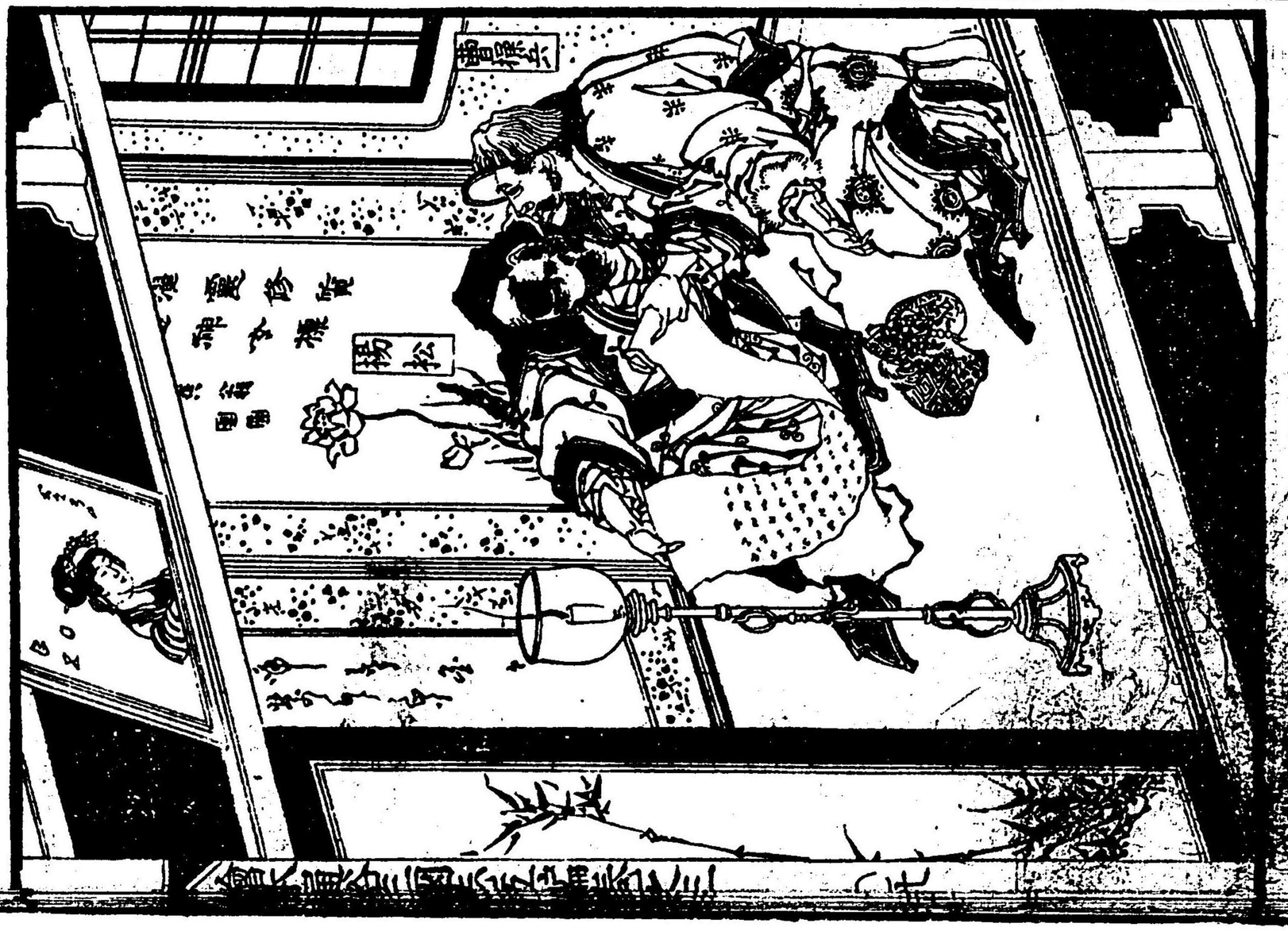
張遼大戰逍遥津

曹操巴に漢中を攻取けるべ。主簿司馬懿字は仲達と云

生て曰く。玄德詐の計をもつて。蜀の劉璋を虜ゝ。その國を奪取たるゆへ人民いまだ安んぜず。今丞相ゝ漢中を取るゆへ蜀中震動して。人民おとゝ。怕を戰うんまの時ゆへ速ゝ攻くりゆべし。勢ひ。ゆるがたのごとくゝ碎けん。聖人も不可遲時。又不可失時。とゝ入り。早く兵をさくやべく。曹操。嘆じてゆけゝ人を赤足とまうす。既ゝ隴を得て。復蜀を望んや。劉曄が曰く。仲達が意見某ゝ同し。玄德ハ度あり。遲重なり。蜀を取て。日いまだ久しからず。人民ゝ服せず。今丞相漢中を取ゝ。蜀中震ひ怕る。その勢ひおのづから傾んん。丞相の神武をもつて。その傾んとするを乘べゝ。勝ずとゝあらんや。若緩々の沙汰ゝ及びゝ文ゝ孔明ゝ

りよく國を治む。武ゝハ關羽張飛趙雲黄忠馬超ゝ云。三軍ゝ秀たる勇將ありゝ。ゝを号して五虎とゝ。蜀の民を定り。諸處の關隘を固く守りゝべ。後ゝ大なる患を成ん。ゝ速ゝ攻ゝ。曹操が曰く。まゝりとゝ入ども。すでに勢とゝく來りて。とゝぐく疲ゝ苦む。まゝらく人馬を休息せしむべ。とて。兵を按住して。さらゝ動ずゝ。のとき。蜀の國ゝ。曹操已ゝ。漢中を取たりときいて。人民ゝ怕まどうちゝ。勢ひゝの。ゝて攻來べ。といゝ。沙汰して。日夜ゝ。ゝんゝ安んぜず。風吹艸の動とやゝて。膽を冷して。怕ゝ戰きしゝべ。玄德おれを憂ひて。計を孔明ゝ問ゝ。孔明が曰く。某一ゝの計あり。曹操元より張遼ゝ大將として。合淝の城を守せ。吳の孫權を拒ぐ




楊松

いま弁舌の人て。吳の國を遣して。まづ荆及の三郡て。吳を返し。利害を說て。孫權を合淝の城て攻させるべ曹操必ず南方を回らん。玄德大を喜んて曰く。誰てかの使とせん。一人進ずて曰く。某願くは行ん。諸人ものまてうんまべ伊籍ちり。玄德志ろるべくして。昏闇て渡しまず。荆及を立寄て。江夏長沙桂陽の三郡て。吳を返へ。渡ちべき由て。關羽を告よと宣へ。伊籍ぺそぎ打立て。荆及を到り。關羽をあんて。玄德の命て傳ぺそれより。吳の國を下向して。直を秣陵を致りけるべ。吳主孫權よびあまて問て曰く。汝いかぐしてさを来れる。伊籍が曰く。ききを。諸葛瑾の来りのひとと。荆及の三郡を返しちらんと約せしぐど。孔明ちりふし。遠く出なるへを。今近延引せりさのを人を某てをんて。荆及の三郡長沙桂陽

江夏を分て。返さしむ。元来さとぐく返しべけれども。如何ぜん。曹操を漢中て取まて。關羽身て谷の地を。曹操ととく出て。合淝の城空虛なり。望らく吳の國の勢て起して。そを合淝の城を攻蒐を。曹操ちるらさ。兵を引て都を回らん。ものが君。もし漢中て取べ。關羽とやして。さまを守らぜ。そのとた荆及を寸地も残さと返し奉らん。今もし疑のんと抱て。兵を起しのへをんべ曹操ちるらさ。大軍て引て南を下らん。そのときぺぐして拒ぎのべき。孫權が曰く。汝志ろく客屋を脇れを。一評議して定ん。伊籍とでを退きけまべ孫權諸の大將て呼でさのをいぐと議しけるを張昭が曰く。是へ玄德が曹操て怕れて。若蜀を攻るとも有んとて。是非

を行ふべきのよりいたれとも曹操ゞ漢中ゝ在ゝの間ゝ速ゝ合淝
と攻取べきを又最上の計なり顧雍ゞ意見も某ゝ同じと云
けるべ孫權ゝ其ゝ從ひまづ伊籍を回らしめ曹肅ゝ命じて
荆刀ゝの三郡を受取せ兵を陸口ゝ屯して呂蒙甘寧と呼回
し餘杭へ使をやせて凌統を招きよせ三軍ゝとゞくゝ都をさ
して攻上る呂蒙ゞ曰く曹操ゝ盧江の太守朱光を大將と
て皖城を守らせ田疇をひらき稻を種て合淝の城へ兵粮を
運ぶ今ゝ皖城を取てその糧ゝ合淝を取ん孫權ゝ同じく呂蒙甘寧を先手とし蔣欽潘璋を後備とし孫權ゝ
ゞら周泰陳武董襲徐盛を引て中軍を守り大江を渡し
て和刀ゝより皖城へ向ゝるゝのとき程普黄蓋韓當ゝ各

處の要害を守りけり去程ゝ皖城ゝ向ゝ吳の
大勢よせるとゝて太守朱光ゝそぎ合淝の城ゝ人を遣し救
の勢を求てゞゞら固く守りけるゝが吳の大軍一度ゝ截岸の
下ゝおしよせ息ゝ揉破らんと志けれべ城の上より雨の降ごとく
射下す矢ゝ手負死人その数をしらず孫權ゝ盛ゝ矢一ゝ中く
をゞゝ裏かく程なりけるゝ孫權ゝ退き諸將と計を議
するゝ董襲ゞ曰く人夫を加へ城の四方ゝ土戈築上勢ゝ乘
て攻破るべし徐盛ゞ曰く雲の梯を堅く虹橋を造り城を直
下して是を攻ん呂蒙ゞ曰くいやゝ御辺達の計へ赤早速
の用ゝ立ゞたしいとゞゞらゝ月日を費ん其の城のびくゝ攻べ合淝
の城より後戈の勢覓るべし志るゝときゝへ何のときゝゝ攻破る

べき。某明日。城を破る計あり。孫権問て曰く。願くは呂蒙が曰く。いま味方の勢初て来りて。その勢ひ方に盛なり。されども射れども顧ず。乗超く攻上らば暁より兵を進めて。午末の刻に城を取ん。孫権喜び誠に其ぐしき計なりと て。五更に兵粮を使ひ大軍一度に喊を造るゆゑ。城を先と攻上るさまを。城の内にも力を尽して。さまを拒ぎ大石と投うけ。矢を放ちて。両より也。時の程に死人手負 数千人に及り。中にも呉の甘寧へ手に鉄の棒を提げ。矢石を冒して上りけるに。城の大将朱光。射手を揃て。弩を張て放ち。甘寧を目とりもせず。雨の降ごとくなる。矢の中を打開き。城の截岸に上りけるを。内へ入ずして。大将朱光立塞りて。攻戦し。甘寧。鉄の棒を揮て。朱光を打倒しけるを。呂蒙と共に。ときを上げ。城の大将朱光。呉の勢気に。ひるみ。一同に攻上り。朱光を。すでに砕殺しけるを。降人に出るを。数万人。城をでに落るとき。漸く辰の刻に及りしのと。張遼へ合肥の城より。兵を分て。後攻の為に来りけるが。既城をでに破れて。朱光も討れぬと告けるを。半途より引回し。緊く守りて。戦へんとす。孫権城を取て。民を安んじけるに。大将凌統。呂蒙を應じて。餘杭より来り。見て。勝軍の賀を述。孫権諸将に恩賞を施し。酒宴を設て。持成けるを。甘寧。恩賜の錦の袍を被て。席上に坐すと。呂蒙に向

み朱光を討て。一番み城み上りうゑひ〳〵へ世み双おき手柄すると。いゑて。酒半酣みゑりけゑとた。凌綾俄みえの甘寧へ父を殺せる仇ちうと。思ひ出して。恨をでみ骨髄み徹り。又甘寧が。今日の軍おも。ひとり高名して。傍若无人ちうてゑて。怒りやく〳〵眦こけるが。剣を抜て席上み立。座中あまりみ奥ちうくゆへ。でうゑ剣を舞して。樂ゑおきんといゑ。甘寧ちゑゑときいて。その意を暁り。前ち る卓をちゑのけ。両枝の戟を取て。臂みさゝれさゝ。進出てゑゑも戟を使て。奥を添んといひけゑゑば。呂蒙大みおどろ。左の手み槍を持。右の手み刀を提げ。二人のあひだみ立隔り。御辺達よとみよく舞のゑとゑゑ。ゑゑもゑゑとホが巧ちうゑゑ及ぶまじとゑゑて。乃ち刀をまへ。槍をたゆて。二人が間をちゑ分たり。早くみの由を孫權み告るものありけゑゑば。孫權驚きあわてゝ馳きたり。席上み立て。二人を和げゑゑと。常みゑ汝二人うちうゑと曰き仇をおゆへ。今日ちゑみとて。又此のおとくちうるぞと。叱りければ。凌統剣をとて。地み拜す。孫權よく二人を諭し和げ。次の日。大軍を進て。合淝の城み攻蒐る。去程み張遼へ皖城の破れたるを足て。ゑの内安うちうぎるゑゑ。忽ち曹操が方より薛礼。といゑものを使とし。一ゑの匣を送ゑて。上み曹操ちうゑゑ封ぢと書て。又傍み敵きたらば即ち開けとありけゑゑば。張遼へまづ発うぎゑゑ。早馬急を告て。呉の孫權十万余騎みて攻きたると報ぢ。薛礼が曰く。早く匣を開きゑゑ。張遼。さてあ。ち発きゑるゑ。もし孫權攻来らば張遼と李典とへ城を出て戦うへ

樂進に城を守りて出るなかれと。有けるに張遼ときて李典樂進に示す。樂進申けるは。將軍の本意いかゞせんとおもひうるに張遼が曰く。丞相とともに出て。漢中に居るの人呉の勢を恐れの城の空虛なるを侮りて。攻破んと。掌の内にありとおもへべし。今城を出てたゝかはゞ戰ひ。奴原に膳をたゝかせたゞその鋭を折き。諸人の心を安んじて。其後に固く守りて出るなかるべし。李典元より張遼と不和なりけるゆへにやこれをうらゞら黙然として言ず。樂進が曰く。敵に多勢にして。味方に寡し。出てたゝかはゞ敵對しがたからん。堅く固く守て出るを無ん張遼が曰く。汝示すこと。私の心をもつて。君の事を癈さんとす。人に兄も角も あるべきに城を出さず。華うの一軍をしてその城を固く守らんと。左右に命じて。馬を引せけるゆへ李典慨然として。座より起されは國家の大事なり。私の恨をもつて。君の事をわすれんや。某は孫權に。將軍の下知に從へといひけるゆへ張遼うぎりなく喜んで曰く。御辺もしかるゆへ助るんあらべきゆへ明日一軍を引て。逍遥津より北に伏せ。呉の勢の來りたゞかを待て。まづ小師橋を砍落し。勢を分てかるゆへを討んとて。計を定めて退散をしたゝかに。呉主孫權は大軍を引て合淝の城に近付給ふ。軍に下知を傳へ曰く。兵は貴神速とゝ。早く攻破るとて。呂蒙甘寧を先手とし。ゆへ。凌統を引て。後に備へ馬を進めて。攻蒐りけるゆへ。城中より。樂進兵を引て討て出甘寧と五六合戰ひ詐り負て退けゆへ甘寧呂蒙勝に乗て追蒐る。孫權先陣

甘寧
光武

の勝たるをきいて。凌統と。後陣を続て追うけたるをもとて。道遥津をひさりけるとき。忽然として。連珠砲をひゞく。左より張遼。右より李典。二手の勢。渦巻出る。孫權大をおどろき。手足を張て。怕を戰き。急を呂蒙甘寧とよび回をとて。張遼兵を引て。真地暗を討て蒐る。孫權が手下を。たゞ三百騎ばかりありけるが。敵の勢ひ。山の崩るごとくなるを。気を奪まく。戰へべきやうもなく。小師橋を渡て。逃れる人とり〳〵べ。凌統をとあげ。君をとみやるを。小師橋を渡て。逃れる人とよべるを。張遼真先をきたる。二千余騎を引て。矢を放ちを雨のごとくなり。凌統をと拒ぎ。命をとて戰ひけるを。孫權をのあゆを馬を乘て。小師橋を渡らんとするを。橋の南をぞを一丈あまり。砍落たり。孫權怕を驚て。いそせんと。身を揉ね

を。大将小合利といふもの。跡を続き。君を乘馬を引戻し。鞭を加へて。再び馬をとのり放ち。一跳をとびさるを。とよびけるを。孫權馬を三丈あまり引回し。再び鞭をくをくてきうをのり放ちしるべその馬勢ひをの乘くやをくと飛さるをけるを。徐盛董襲味方を救ふとて。舟を浮べくむをける。孫權が橋をとられるとき。張遼が勢きうを追うけるを。凌統と合利とを。又取て回し。大勢の中へ蒐入り。火出るをどを戰へたり。甘寧兵を引て。後より蒐りけるを。李典が勢喊を造りて。討て蒐る。呂蒙一隊を引て。その後をさをぎうをとられべ。又樂進が勢気をの乘てうけ立るをれをよ乘て。呉の勢。大半討を。凌統が三百余騎へ一人も残らず。討殺され。凌統も鎗を。杖

所と突れ。朱ゑうりて。たゞ一騎。橋を渡らんとする。橋上ぐく落て。おらも馬疲れさきべ。河ゑ傍て逃けるを。孫權船の中より望こゝて。きうゑ董襲ゑ命ずて。小舟を棹してむかへども。ゑ敢軍と收めて。河より南ゑ陣を取。その日の合戦。あまりゑ烈しく。吳の勢おびたゞしく討まゝ。人こゝ張遼が名を。きくまとを怕ゑ遼来くとヤせば。江南の小児。あゝて夜啼をせぬと。いひ傳へたり。孫權陣中ゑ回りて。討まゝたるものを点檢するゑその枚。あげて知ゞ人けれども。惜ひてさらゑ治らぬ。誠將上ぐく來つゝ見て曰。至尊へ則万民の主。當ゑ身を保ゆて。重んずるべし。今日の事。惜き怕ゑ遼とゝらんとゝのなり。天地神明の擁護ゑあらさんず爭。今日の危きを免まるゝ。君よくく心ゑ記して。一生の戒とし給へとヤければ孫權涙を流して曰。まゝもんの内ゑ感儻で。肺腑ゑ銘ずてゝ人て忘るゝこなけんとて。重く凌統ゑ思賞とて。吳の國へ使を遣し。新手の勢を催促を。張遼へ合淝城ゑ向つて。諸將と相議し。今日道遥津の戰ひゑ勝とゝ人ども。孫權ゑ沒濡須ゑありて。水陸より攻上んと計る。その城中。勢不足ゑして。始終叶まず。亟相ゑ報じて。早く援兵を乞んとて。をゝ使を辟使と使とし。夜を日ゑ継で。漢中ゑ至らしむ。曹操ゑの由を聞いて。諸將ゑ問て曰。ゝまいま蜀を攻べゝ。劉璋が曰くいまの蜀中さを定りて。輕こしくへ攻ぐゝ。ゝまゝ。急を救て。吳の國を破りゑ。曹操げゑもと同ずて。夏侯淵を留

122
74

て。定軍山と守らせ。張郃と。蒙頭岩とぞめて。渠山の要害を守らせ。六の二人を。漢中と總攝しめ。ゝら四十万の大軍を率して。夜と日を繼て。路をいそぎ直を濡須とさして攻上る。

22
74
28

繪本通俗三國志

五編

三

122
74
28